

【学校の教育目標】

磨く

～自主 友愛 一之宮愛～

【宮小・中で育てたい
資質能力】

対話を工夫しながら、
自分の考えを深める力

◎高山市立学校教育の方針と重点

【方針】未来社会を創造する資質・能力を身に付け、
学び続ける子の育成

【授業・活動のキーワード】『主体的・対話的で深い学び』

～対話から議論！より深い学びへ～

一人ひとりに合った学びの実現

一人ひとりに合った居場所の実現

◎地域の方々の願い（R7 学校運営協議会での評価内容）

- ・学年相応の対話的な授業が実践されており、その継続。
- ・生徒一人ひとりに寄り添う丁寧な対応や指導の継続。
- ・一之宮の桜や地域の求めている課題を、ともに解決していく取り組みを期待。

□経営の重点

1 「対話から議論！より深い学びへ」となる授業づくり

- ① 何が、どこまでできているのかの把握、分析。その様相をとらえての課題提示。
- ② 単位時間の役割を明確にしたことによる、議論し考えさせたい内容の絞り込み。
- ③ 教科の系統性をふまえ、議論する内容の高まり。

2 「にじ色」「本校」における一人ひとりに合った居場所づくり

- ① 互いの良さ、価値観の違いを受け入れ、尊重しあうことができる関係の構築。
- ② 質の高い生徒会運営での、“やりがい” やできたことに対する見届け、励まし。
- ③ スピード感あるいじめ対応、かつ校内支援センター「桜ルーム」での継続支援。

3 豊富な地域の財産の一つ「臥龍桜」を生かした郷土教育の推進

- ① “ふろしき理論” による、キャリア、ICT、プレゼン教育への展開。
- ② 外部講師、地域の専門家による指導内容の高まり、および充実感の広がり。
- ③ 地域イベントへの積極的な関わりによる、地域への愛着と誇りの醸成。

○人材育成

- ・本校とにじ色の日常的な連携、相談体制
⇒指導方法の共有
- ・キャリアステージの活用
⇒人事面談での見通し
- ・声を掛け合う集団、そして鍛えあう集団
⇒なれ合いからの脱却

○服務規律

- ・定期的なコンプライアンスチェック
⇒教頭中心の指導体制
- ・性加害防止
⇒研修、環境、相談
- ・各種報道からの危険予知、予測能力指導
⇒機を逃さない指導

○業務量管理

- ・業務量の質、量の改善
- ・健康確保措置
(地教行法 47-5)
⇒業務量、分掌の軽重
…働きやすさの実現
- ⇒会議日程変更、削減
- ⇒日課一部変更…帰宅時間
- ⇒人事面談等での健康相談

□宮中学校教職員としての指導の構え

- ・私たちは「教職に携わる」という、崇高、かつ、いい意味での「自負」をもつこと
- ・偉ぶったり知ったかぶりをしないこと
- ・子ども大人関わらず、相手を尊重する気持ちで、声掛けや応対をすること